

第67回日本食道学会学術集会開催について



第67回日本食道学会学術集会 会長
 大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科
 大杉 治司

来る6月13日、14日に大阪国際会議場にて第67回日本食道学会学術集会を開催させていただきます。先日演題応募を締め切らせていただきましたが、660題と非常に多くの演題応募を賜りました。この場を借りてまずは御礼申し上げます。医療連携にも多くの演題を賜りました。是非、医師以外の参加者にも座長をお願いしたいと考えております。学術集会のテーマは“明日への敢為 Challenge for the future”といたしました。将来のより良い食道疾患の診療、研究、教育に今敢えて何を為すべきかを目指して、討論いただきたいと思っております。食道疾患診療は医師のみならず、多くの専門職の医療連携を最も必要といたしております。会員の先生におかれましては貴施設の医療連携スタッフにも参加をお呼びかけいただき、今回のみならず今後の学術集会においても研鑽の場を見いだしていた

だきたいと願っております。特別講演には今回は医科学界からではなく、仏教界から塩沼亮潤 大阿闍梨をお招きする予定です。大阿闍梨は吉野山の金峯山寺蔵王堂から大峯山と呼ばれる山上ヶ岳までの往復48キロメートル、高低差1,300メートル以上の山道を決められた期間毎日往復する行を満行されました。実に計4万8,000キロメートルで地球一周以上となります。これまで金峯山寺開創以来約1,300年で塩沼亮潤 大阿闍梨を含めてお二人が満行されたと伺っております。さらに塩沼亮潤 大阿闍梨は千日回峰行から1年後に四無行も満行されました。これは医学の常識を越えて9日間の断食、断水、不眠、不臥の中、20万編の真言を唱え続ける行で、生きて成就する確率は50%とされているそうです。このような過酷とも言える行をとおして開かれた悟りをお聞きすることは厳しい状況で食道疾患に向かう我々にとって益すること多大と期待いたしております。また、国際シンポジウムはNCD登録も始まったなかで、食道癌のステージングについて討論していただきます。ご存じのように欧米の食道癌ステージングは本邦の食道癌取扱い規約とは随分と違うものになってまいりました。本邦のステージングでは長年に蓄積してきたリンパ節転移データを重視した分類、ひいては治療戦略の基礎となっております。依然全世界を見ますと扁平上皮がんが過半数を占めております。このような観点からどのようなステージングが洋の東西を問わず必要なのか議論される事を期待いたしております。その他多くの 주제로、将来のより良い食道疾患の診療、研究、教育に向けて今敢えて何を為すべきか、より多くの参加者による熱い討論を願っております。

The 67th Annual Meeting of the Japan Esophageal Society

Challenge for the Future

明日への敢為

演題募集期間

2012年11月21日◎

～2013年1月24日◎

大会HPよりオンラインでの投稿となります。



JES

第67回日本食道学会学術集会

www.congre.co.jp/jes2013/

2013年6月13日(木)～14日(金) 大阪国際会議場
 会長：大杉 治司 大阪市立大学大学院 消化器外科(第2外科)

【事務局】大阪市立大学 消化器外科 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 Tel: 06-6645-3841 Fax: 06-6646-6057
 【運営事務局】株式会社コンプレックス 〒541-0047 大阪市中央区渡辺町3-6-13 Tel: 06-6229-2555 Fax: 06-6229-2556 E-mail: jes2013@congre.co.jp

専門医制度関連資格について

平成24(2012)年度食道科認定医 認定結果について

食道科認定医認定部会 部会長

大杉 治司 (大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科)

平成24年度の食道科認定医の申請は7月31日で締め切り、74名の先生からの申請がありました。10月に食道科認定医認定部会にて書類審査を行い、11月24日の専門医制度委員会にて判定を行い、同日の理事会にて決定されました。結果は全員規定を満たしておられました。この旨をご通知し、全員が認定料を納入されましたので2013年1月1日付けで認定証を送付させていただきました。

平成24(2012)年度食道外科専門医 認定結果について

食道外科専門医認定部会 部会長

大杉 治司 (大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科)

平成24年度の食道外科専門医の申請は7月31日で締め切り、43名の先生からの申請がありました。10月中旬に食道外科専門医認定部会にて書類審査を行いました。29名が書類審査の結果、規定を満たしておられました。今回は書類審査で疑義が生じ、

理事会の議を経て、1名の先生には規則に従い今後5年間の申請停止とさせていただきます。書類審査の結果は11月1日に申請者にお知らせし、合格者には受験票を送付いたしました。食道外科専門医試験は11月23日、午前中にマークシートによる筆記試験、午後に口頭試問を行いました。同24日に食道外科専門医認定部会および専門医制度委員会による判定会議を行い、25名の先生が合格と判定いたしました。同日の理事会にてこれら25名の先生の合格が確認されました。結果は11月下旬にご連絡申し上げ、全員が認定料を納入されましたので2013年1月1日付けで認定証を送付させていただきます。

今回の申請書類でも、手術施行日が不明、担当が不明などが目立ちました。今後申請予定のかたは書類記入にご注意いただきますよう、お願い申し上げます。

平成24（2012）年度食道外科専門医認定施設認定結果について

食道外科専門医認定施設認定部会 部会長

矢野 雅彦（大阪府立成人病センター消化器外科）

平成24（2012）年度より食道外科専門医制度による施設認定が始まりました。

2012年7月31日の締め切りまでに全国98施設から申請をいただきました。

申請書類を事務局と部会長でチェックし、誤記や記載漏れなど軽微なミスは各施設で修正し再提出していただいた後、2012年10月27日に食道外科専門医認定施設認定部会を開催しました（写真）。

修練責任者の資格、症例実績、施設の業績、食道学会全国登録・胸部外科学会学術調査への報告など、食道外科専門医制度

規則（定款施行細則第8号）第23条ならびに食道外科専門医制度規則 施設認定施行細則第11条に定められている必須項目を満たしているかどうかを同部会において厳正に審査いたしました。

審査の結果、98施設中68施設が適格であると判断され、この結果は11月24日に開かれた専門医制度委員会および理事会で承認され、68施設が食道外科専門医認定施設として認定されました。認定施設はホームページ上に掲載いたしました。

今回、不合格となった施設数は30施設に上りましたが、不合格の理由（重複を含む）は、「日本食道学会の全国登録への報告なし（20施設）」、「胸部外科学会の学術調査への報告なし（11施設）」、「手術件数の不足（2施設）」、「日本食道学会での発表なし（2施設）」、「修練責任者の不在（1施設）」、「放射線治療の体制の不備（1施設）」でした。

特に最大の不合格理由である全国登録と学術調査への報告漏れについては、今後これを減少させるべく、日本胸部外科学会とも密な連携を通して会員の皆様への周知を図るなどの対策を講じていきたいと考えています。

近い将来、施設認定の申請を予定している施設におかれましては、報告漏れのないようご注意くださいと思います。

なお、平成25（2013）年度の認定業務は下記の通りで行う予定です。

■概要

申請期間：2013年6月1日～同年7月31日
（午後5時必着）

最終審査：2013年12月（予定）

認定可否の通知：2013年12月（予定）

認定期間：2014年1月1日～2018年12月31日



ISDE 報告

第13回ISDE総会に参加して

川久保 博文 (慶應義塾大学医学部外科)

10月15日から17日までイタリアのベニスにて第13回ISDE総会 (13th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus) が開催され、参加してきました。この学会は2年に1度開催され、前回の第12回は鹿児島大学の愛甲孝教授が会長をされました。今回はUniversity Hospital of PaduaのProf. Ermanno Anconaが会長で、ベネチア国際映画祭の会場として有名なリド島のPalazzo del Casinoが会場でした。ベニスという観光地で開催され、参加者の多くが観光に行ってしまったせいか、会場は比較的閑散としていましたが、2日目のManagement of squamous cell cancer: East vs WestではオランダのDr. Michael Stahl、香港のDr. Simon Lawと日本から北川雄光先生、安藤暢敏先生のレクチャーがあり、会場は満員の状態でした。小山恒男先生や矢作直久先生の内視鏡治療のビデオも多くの参加者から賞賛されていました。3日ともFacultyのレクチャーを中心とした主題セッションが2列と口演セッションが1列、ポスター発表があり、活発な討論がされました。今回の学会の演題登録数は日本が最多であったそうです。ランチの時間になっても食事ができてこなかったり、昼過ぎからワインが振る舞われたりとイタリアらしいところもありました。

ベニスは初めて訪れましたが、本島は観光客で賑わっていました。テレビでよく紹介されているサンマルコ広場や狭い運河を進んで行くゴンドラを見た時は感激しました。滞在中の10月15日は「アクアアルタ」(高水) といって、アフリカから吹き付ける強い風 (sirocco) と高潮が重なって起こる潮位現象のため水位が105cmに達し、観光名所のサンマルコ広場が完全に冠水しました。数年に1度の水位だったそうです。サンマルコ広場のオープンテラスで長靴を履いてでも食事を外でする観光客の姿は正直笑えました。



滞在中の夕食は神奈川がんセンターの尾形先生、虎の門病院の上野先生や癌研有明病院の山田先生、峯先生と夜遅くまで飲み、日本の学会中にはなかなか出来ない交流をすることができ、大変有意義な滞在でした。次回のバンクーバーも是非参加したいと思います。帰国の日は前日に飲み過ぎたせいで朝寝坊し、水上バスに乗り遅れ、ホテルが呼んでくれたタクシー (モーターボート) でギリギリ飛行機に間に合ったという冷や汗もかきました。

各種委員会報告

会誌編集委員会

小澤 壯治 (東海大学医学部消化器外科)

会員の皆様におかれましては、本学会機関誌Esophagusの発展にご尽力賜り、心より感謝申し上げます。

2009年8月より電子投稿・査読システムの運用に伴い、オンライン版のみの発刊について、理事会、ならびに関係委員会との審議の結果、2013年のVol.10. No. 1から、会員宛の冊子の郵送を中止し、オンライン版のみの発刊といたします。

オンライン版は、日本食道学会会員専用ページから、所定のID・パスワードでログインしていただきますと、全文を閲覧することができます。出版社からContents Alertを直接受け取りたい場合には、EsophagusのHP (<http://www.springer.com/10388>) の、右列「ALERTS FOR THE JOURNAL」の「Your E-Mail Address」にメールアドレスを入力すれば手続きは完了です。

冊子体購入をご希望の場合、所定の申込用紙をお送りいただき、送付代金 (3,000円、計4回送付) をご入金いただくことが必要です。ご不明な点がございましたら、事務局までご一報ください。

全国登録委員会

日月 裕司 (国立がん研究センター中央病院消化管腫瘍科食道外科)

2012年8月より開始した2012年度の食道癌全国登録を、2013年1月15日到着分まで締め切りました。今回は治療の変化に対応したデータの集計が可能となるようタイム・ラグを縮めるため、対象年を2005年と2006年の2年分とさせていただきます。また食道癌全国登録ソフトの更新 (v2.0) に多くの不具合があり、皆様にご迷惑をおかけしたことを、あらためてお詫びします。約250施設からの登録をいただき、解析作業中です。今年度中の冊子の出版と配布、Esophagusへの掲載を予定しています。

2013年度の食道癌全国登録は対象年を2007年と2008年の2年分とさせていただきます。これにより、治療開始後5年のデータが得られることとなります。日本における食道癌の現状把握にとどまらず、食道癌取り扱い規約やTNM分類の改訂に活用できるデータの集計を目指しています。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

専門医制度委員会

梶山 美明 (順天堂大学医学部上部消化管外科学)

一昨年より厚生労働省内において「専門医の在り方に関する検討会」が開かれ今年3月には結論を出す予定になっています。この検討会の議論の内容は厚生労働省のホームページに公開されていますが、新しい専門医制度では専門医を「安全安心で標準的な治療が行える医師」と定義し、専門医の数を限定し医師の地方偏在の解消方法の一つとしてこれを活用しようと考えている様です。日本食道学会は食道外科専門医制度をすでに開始し専門性の高い食道外科専門医を認定していますが、専門医制度に対する考え方が「専門医の在り方に関する検討会」とは異なる点もあります。そこでわが国全体の専門医制度の議論に加わるために日本外科学会内に設置されている「外科関連専門医制度委員会」に加盟することが2013年1月11日の同委員会で承認されました。外科関連専門医制度委員会は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本小児外科学会、心臓血管外科専門医認定機構、呼吸器外科専門医合同委員会、日本乳癌学会、日本大腸肛門病学会、日本肝胆膵外科学会、NCDが参加しており日本食道学会が新たに加わることになりました。今後もわが国の新たな専門医制度の動向について注視し報告して参ります。

食道癌取扱い規約委員会

松原 久裕 (千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学)

昨年のISDEにてT. Riceが発表した抄録、ならびに日月先生あてに届いた手紙の内容から、TNMが2017年に第8版の改訂出版を目指しており、日本へも症例集積の協力が依頼されています(他のT. Riceの知り合いの先生にも連絡が別々にきております)。昨年11月の理事会にて、個々に対応せず食道学会として全国登録委員会、取扱い規約委員会が協力して対応、討議に加わっていく方針となりました。

胃癌はTNM第7版改訂時に会議に出席し、日本からのデータを十分では無いにしろ、意見を出した経緯があります。一方、食道癌においては第7版では全く反映されておりません。その他の内容、状況からも懸案でありました今回の改訂ではTNM第7版とのN分類を中心とした整合性確保は見送り、その他の問題点のみ改訂したいと考えるに至りました。どの程度、日本の意見が反映されるか判りませんが、本学会から意見を出したTNM第8版以降にN分類の導入を再度、検討したいと思えます。なお、先日開催された大腸癌研究会では今年の7月に第8版を出版予定ですが、TNMとの整合性は取り入れず病期分類N分類については改訂されないことに決定されました。

2015年出版を目指している今回の本規約改訂では、先日決定された病理組織分類の改訂、拡大内視鏡分類、現在胃癌学会と合同のワーキンググループで検討している食道胃接合部癌(2012年12月に合同の食道胃接合部診断基準が作成され答申され承認されました)を中心とした改訂方針を本委員会ならびに本年3月の理事会にて承認いただきました。今後、具体的な

改訂作業を進めてまいります。より良い規約を作っていくため、会員各位のご協力よろしくお願い申し上げます。

用語委員会

夏越 祥次 (鹿児島大学腫瘍制御学・消化器外科学)

食道疾患用語集は1998年6月20日に食道疾患研究会より第1版が発行されました。昨年6月に、食道疾患用語解説集として第2版が刊行されました。各委員、分担執筆の先生方の熱心なご尽力により、全体として用語数が増え、また各用語に解説文が付加されたことからページ数が増加しました。本書の用語を調べると、内容まで理解できるように工夫をした点が特徴です。

発刊以来、食道学会の会員の先生方を始め購入していただきありがとうございます。現在のところ、学会での売り上げが210部、書店・学会場での売り上げが約250部となっています。未だ1,000部残っていますので会員の皆様には是非1冊購入いただければと思います。日常診療、論文執筆の際に傍らに置いてご利用いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

*編集後記

本年6月13日、14日に大阪国際会議場にて第67回日本食道学会学術集会在開催されます。本学術集会在を主宰される大阪市立大学 大杉治司先生の掲げられたテーマは“明日への敢為 Challenge for the future”です。甚だ恐縮ながら無学の私は「敢為(かんい)」の意味が分からず、辞書を引いたところ「物事を困難に屈しないでやり通すこと」とありました。食道疾患治療は、まさに「敢為」そのもの、困難に屈しないたゆまぬ努力と挑戦の歴史であったと思います。先達のspiritを明日に、未来に繋ぐことが食道疾患に携わる我々現役の使命であり、これまでに築き上げられたartとscienceを継承しつつ、自由な発想から生まれた、誰もが予想しなかった新しい診断、治療法の開発に期待したいと思います。未来は我々の掌の中にあります。

本学術集会在のご成功を心よりお祈り申し上げます。一人でも多くの方にご参加いただき、“熱い大阪”にしましょう。(HT)

広報委員会 委員長 河野辰幸
 委員 阿久津泰典、有馬美和子、
 出江洋介、熊谷洋一、竹内裕也、
 奈良智之、前原喜彦

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒260-0856

千葉市中央区亥鼻3-2-4 サンシティ亥鼻B

電話・FAX 043-222-5665

e-mail : office@esophagus.jp

ホームページ http://www.esophagus.jp/